千葉市

知ってほしい

発達障害のこと

近年、「発達障害」という言葉をよく耳にするようになりました。
ですが、さまざまな情報が飛び交う中、誤解などを防ぐため、
改めて理解を深めていく必要があります。
また、周囲の理解とサポートが重要となります。
このパンフレットが、発達障害のある方や気になるお子さんのご家族、
支援者の方はもちろん、広く市民の皆さんの理解の助けになれば幸いです。

目次

発達障害って何だろう P1
発達障害のよくある誤解 P2
主な発達障害と関わり方 ..... P3、4
自閉スペクトラム症（ASD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）、学習障害（LD）
家庭での支援 P5
社会の支援 P6

**専用のアプリで
音声コードを
読み取ることで、
ページ全体を音声で
読み上げます。**

発達障害って何だろう

まずは「発達障害」について、定義やよく見られる特徴を紹介します。

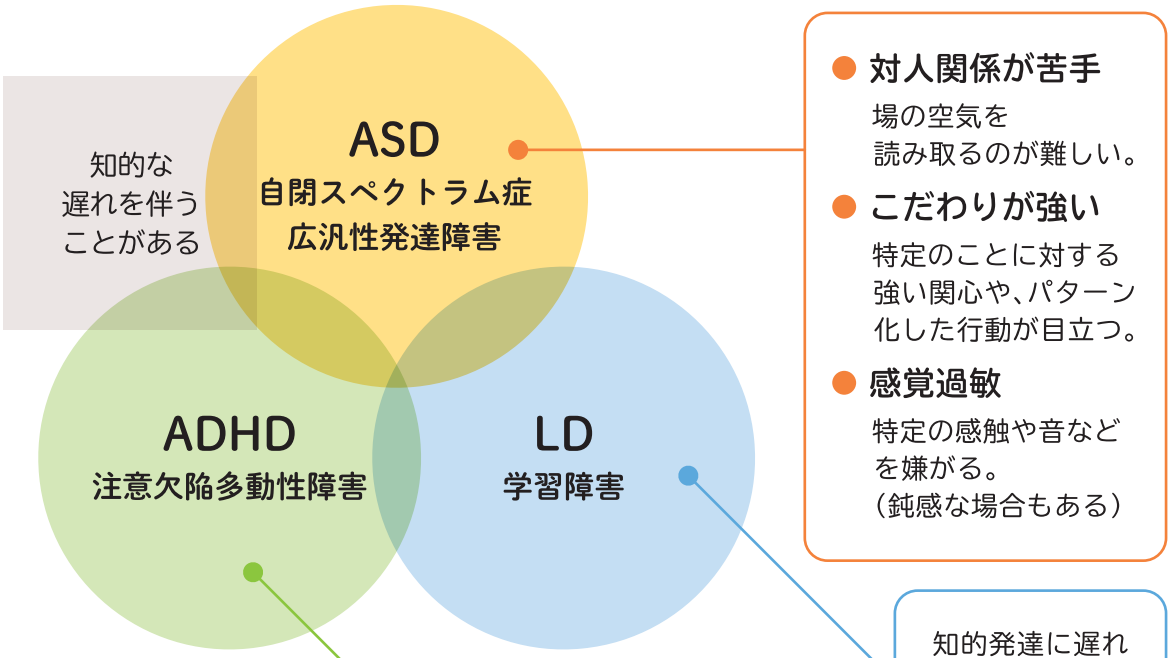
発達障害とは

発達障害とは、脳の認知機能の偏りによって特徴的なとらえ方や行動が現れるなど、脳機能の発達に関係する障害です。誰しも得意（凸）不得意（凹）はあるものですが、その凹凸の差が大きく、不適応（環境とのミスマッチ）が生じているということなので、「発達障害は欠点だ」と決めつけるものではありません。また、代表的な発達障害に「自閉スペクトラム症（ＡＳＤ）」「注意欠陥多動性障害（ＡＤＨＤ）」「学習障害（ＬＤ）」があります。

グレーゾーンへの支援の必要性

「発達障害の特性が見られるものの、診断基準には満たない」という意味でグレーゾーンという言葉が用いられることもあります。グレーゾーンの人たちも、周りの環境への適応に困っている場合、何らかの支援が必要です。

おもな発達障害とその特徴



- **対人関係が苦手**
  場の空気を読み取るのが難しい。
- **こだわりが強い**
  特定のことに対する強い関心や、パターン化した行動が目立つ。
- **感覚過敏**
  特定の感触や音などを嫌がる。（鈍感な場合もある）

- **不注意**　なくし物が多い。集中できない。
- **多動、多弁**　じっとしていられない、おしゃべりが止まらない。
- **衝動的に行動する**　急な飛び出し、考える前に行動する。

知的発達に遅れはないが、「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」などが極端に苦手。

※ここに挙げた特性は一例であり、現れ方には個人差があります。
※このほか、トゥレット症候群や吃音（症）なども発達障害に含まれます。

発達障害のよくある誤解

発達障害にまつわるよくある誤解を紹介します。

ずっと発達しないの？

「発達障害」という名称ですが、「発達しない」のではなく、「発達の仕方に凸凹がある」というのが正しいとらえ方です。誰でも、生まれついての性格だけでなく、家庭環境や教育など外的要因の影響を受けて一生かけて成長します。発達障害も同じで、個人差はありますが、周囲が特性を理解しサポートすることで困りごとが減り、能力をより伸ばすことができます。

手伝いすぎるのはよくないの？

「発達障害は一つの個性だから配慮する必要はない」という考え方も、「苦手なことは全て手伝う」という考え方も極端なものです。当事者が何に困っているのかを把握し理解した上で、個々に合わせた支援が必要です。

… 理解不足が生む二次障害 …

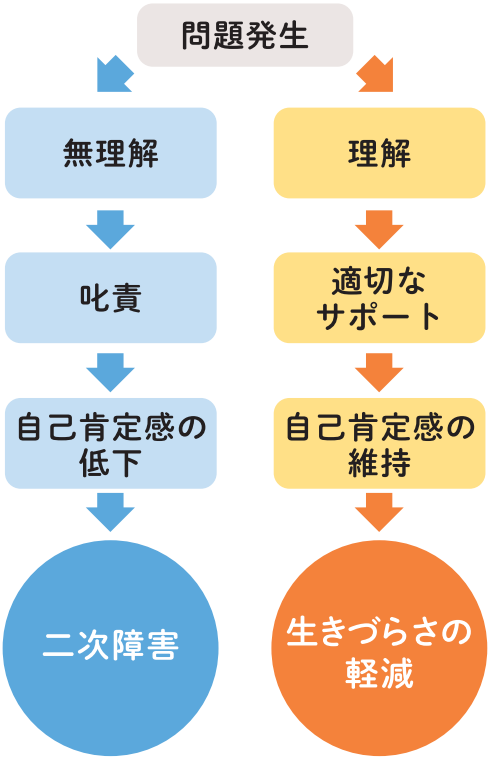
不適切な対応が二次的な障害を招く

発達障害があると、失敗したり怒られたりすることがどうしても多くなり、小学校入学時や思春期には学校生活や友人関係でトラブルも目立ち始めます。適切な対応がされず、自尊心や自己肯定感が上手く育まれないと、不登校やひきこもりといった別の問題につながるケースがあり、「二次障害」と呼ばれます。

二次障害は未然に防ぐことが可能

二次障害は家族や周囲の関わり方によって未然に防ぐことができます。そのためにも、特性を理解した上での関わりが重要であり、将来の社会的自立にもつながります。

…· 起因する問題 ·…

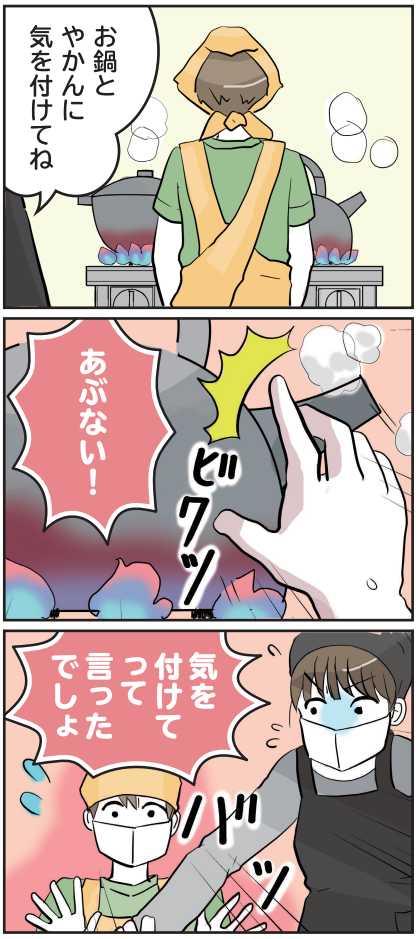


主な発達障害と関わり方①

自閉スペクトラム症（ASD）

かつて「自閉症」「アスペルガー症候群」「高機能自閉症」などと呼ばれていた症状を連続体（スペクトラム）と捉え、今ではASDの診断名が広く用いられています。対人関係や社会的なやりとりが苦手であったり、こだわり行動が大きな特徴です。

CASE 01 思った通りに伝わらない



コミュニケーションが苦手なASD

ASDには、「コミュニケーションが苦手」などの特性があります。言葉をそのまま受け取ってしまう、相手の意思をくみ取るのが苦手で「空気が読めない」と言われてしまうなど、対人関係などで困難が生じやすいのが特徴です。

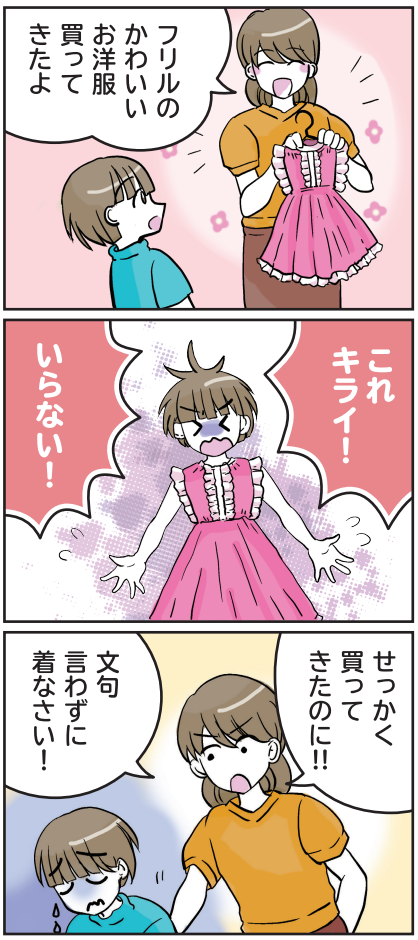
関わり方のポイント

言葉をかける時は具体的かつシンプルに。物の名前や数字、求めている行動などを、具体的に伝えることが有効です。「ちょっと」「優しく」などあいまいな表現は避けましょう。

Good

具体的な内容で声かけを

CASE 02 この感じが気になってイヤ！



感覚の敏感さ、鈍感さも特性

感覚の偏りなどがASDの特性です。視覚、聴覚、嗅覚、触覚などが敏感だったり逆に鈍感だったりするため、日常生活に支障をきたすことがあります。聴覚が敏感で大きい音が苦手というケースなどもあります。

関わり方のポイント

我慢させるのはNG。聴覚が敏感ならイヤーマフを着ける、触覚が敏感なら着られる形や素材の洋服をあれこれ試してみるなど、苦手な感覚を取り除いてあげましょう。

Good

苦手を受け入れ、取り除いてあげよう